

## 令和7年度（第16期第5回）小平市廃棄物減量等推進審議会 会議要録

### 1 日時

令和7年5月16日（金） 午後2時～午後4時

### 2 場所

小平市リサイクルセンター 2階多目的ルーム

### 3 出席者

○小平市廃棄物減量等推進審議会委員 17名

山谷修作会長、渡辺浩平副会長、市川純子委員、大橋久枝委員、大脇直彦委員、小栗作郎委員、川辺勝委員、河原林理委員、木村源一委員、土屋健一委員、先山厚子委員、丹治由紀子委員、中上富之委員、茂木勉委員、四宮範明委員、山本五郎委員、吉浦高志委員  
（欠席）塩澤美香子委員、武田直子委員

○事務局 6名

環境部長、資源循環課長、資源循環課長補佐兼管理担当係長、資源循環課推進担当係長、資源循環課推進担当2名

### 4 傍聴者

0名

### 5 議事

基本計画第5章における基本方針2を実施するため、市民・行政・事業者が取り組むべきこと

### 6 配付資料

第16期 廃棄物減量等推進審議会 委員名簿

資料1

【基本方針2】発生抑制・再使用の推進 答申(案)まとめ

(参考)【基本方針2】発生抑制・再使用の推進 アイデアシート全件取りまとめ

## 7 内容

### <議事>

(山谷会長)

基本方針2に対して委員の皆さまよりお出しいただいたアイデアを、事務局側で採点した。基本方針2の①～⑥に示した具体的事項につき、行政が業務を執行するうえで参考になると感じたもの(=点数の高かったもの)を資料として配布している。

まず事務局から説明をお願いします。

(事務局)

議事の内容について説明。

(山谷会長)

具体的事項①「フードドライブの実施頻度や実施場所の見直し」について、意見のある委員はいらっしゃいますか。

(渡辺副会長)

小平市内のいなげやさんではフードドライブを実施していないと記載があるが、本当か。

(茂木委員)

いなげやは多摩地区の24店舗でフードドライブを実施している。各店舗からセンターに集まってくるのだが、小平市内の店舗からは集まって来ないようである。小平市内の店舗がどのようにフードドライブを行っているか分かる方はいらっしゃいますか。

(事務局)

小平市内の店舗で行っているフードドライブの流れは把握していないが、小平市社会福祉協議会を通して提供されているのではないかと想定される。

(先山委員)

いなげやさんに聞いたところ、小平市社会福祉協議会の方が取りに来て、フードパントリーや子ども食堂に利用されているとのことだった。サービスカウンターで実施していて、スーパーは朝から晩まで営業しているので、持って行きやすいという印象だった。

(山谷会長)

いなげやさんには、是非さらなる広報をしていただければと思う。他に意見のある方はいらっしゃいますか。

(先山委員)

市が行っているフードドライブ活動に参加したことがあるが、周知が十分にされていないように感じた。「資源とごみの出し方」パンフレットを見る方が多いと思うので、掲載することによって年間を通して参加してくれる方が増えるのではないかと思います。

(小栗委員)

事務局側で採点を行う際の項目のひとつである「効果」は、どういうことを指しているのか。

(事務局)

「効果」の点数が高いものは、挙げられたアイデアの内容が基本方針に示された具体的事項を達成するために効果的であると事務局が判断したものである。

(山谷会長)

効果については数値化される要素ではないので、判断が難しいものではあるが、ここでは、効果がありそうと思われるものに高い点数をつけている。

(大橋委員)

委員から出たアイデアの中に、「学校でフードドライブを実施」とあるが、是非学校側の意見を伺いたい。

(四宮委員)

私自身、フードドライブというものを今日初めて知ったので、広報的な意味でも学校で実施することは意味があるものだと思う。しかしながら、学校には様々なところから広報やゲストティーチャーの依頼が来ており、学校の負担になっている現状もある。学校でフードドライブを実施するとすれば、学校が窓口となるよりは、学校を開催場所として、学校公開日などに行政が実施する方が現実的ではないかと思う。

(市川委員)

本日の議題とは少し異なるかもしれないが、子どもたちは学校で給食をお腹いっぱい食べられているのか。

(四宮委員)

給食については、残さないよう食べられる量をまず配膳して、それでも足りない場合はおかわりしましょうという学校が多い。量が少ないとか様々な報道があるが、必要な栄養については計算して提供しており、食育という意味でも工夫した給食を実施している。

(渡辺副会長)

この審議会でフードドライブを取り上げているということは、食品ロスを減らすという目的だと思うが、食品ロスで多いのは野菜や果物などであり、こうしたものはフードドライブで再利用できない。単にフードドライブを実施しただけでは、食品ロスを減らすことはできない。無駄を出さない食生活に対する気づきを与えることが重要であると思う。

(吉浦委員)

アイデアを考えるときに、「コスト」が採点の基準にあるのを知らなかった。採点方法については、今後も同様の方法で行うのか。

(事務局)

今後についても、同様の方法で採点を行う。

(小栗委員)

行政はコスト意識が希薄である。

委員の皆さまはアイデアを考えるにあたって時間を費やしていると思う。私自身もおおぞら福祉センターに行って、いろいろ聞いた。フードドライブに来る方は、チラシを見て来る方が月に2、3人いるのみとのことだった。フードドライブの必要性や感謝の声などを広報して、当事者意識を持って参加していただくことが重要だと思う。

(山谷会長)

コスト面については、予算という観点で数値化することができる。

他自治体においても、様々なアイデアの取捨選択方法があるので、参考にして改善していければと思う。

(渡辺副会長)

委員の皆さまが出した意見については、点数が低いものであっても参考になると思うので、是非取り入れていただければと思う。

(山谷会長)

具体的事項②「自治会など民間団体が行うフードドライブ活動への支援」について、意見のある委員はいらっしゃいますか。

(吉浦委員)

最近、自治会活動が弱くなってきているということもあるが、小平市では自治会の数など状況の把握はしているか。

(事務局)

市ホームページにて自治会マップというものを公表しており、どのエリアにどのくらいの自治会があるかは把握している。

(吉浦委員)

回覧板などはあるのか。

(事務局)

各自治会の中に、約2,700ほど班というものがあるため、そちらに対してチラシを配布して回覧してもらうこともできる。

(渡辺副会長)

具体的事項②に挙げられているフードドライブ活動の支援は、食品を集める側を支援するのか、それとも食品を出す側を支援するのか、どちらが課題なのか考えなければいけないと感じる。どちらかと言えば、集める側(フードドライブを実施する団体)を支援した方が効果があるのではないかと思う。

(先山委員)

フードドライブで寄付された食品がどのように利用されているのかが分かる資料を作成して、配布するのはどうか。また、フードドライブの開催自体を知らない方が多いので、開催場所をごみカレンダーに掲載するなど周知を徹底することが重要であると思う。

(山谷会長)

フードドライブにて寄付した食品がその後どのように利用されているか分かるようにすることで、参加してくれる人がより増えるのではないだろうか。

(事務局)

フードドライブの開催についてはチラシやホームページなどで掲載しているが、寄付された食品の利用方法などは写真つきで市報などに掲載することを検討したい。

(丹治委員)

クリーン週間などは自治会の活動の中でもクローズアップされるが、フードドライブについてはまだ浸透していないように感じる。各自治会が積極的にフードドライブに取り組めるような期間などがあると、自治会の中でノウハウなどを作っていけるのではないかと思う。

(山谷会長)

小平市ではさまざまな環境イベントを実施しているので、その中でフードドライブに焦点を当ててもよいのではないだろうか。

(市川委員)

最近、野菜が無料でもらえるアプリがあったりするので、市が申し込んで子ども食堂などに寄付をすれば良いのではないか。また、農家から廃棄する野菜などを寄付することもできると思う。

先ほど、渡辺副会長から野菜などはフードドライブに適さないという趣旨の発言があったので、意見を聞いてみたい。

(渡辺副会長)

フードドライブ活動はとても意味のある活動なので、市川委員が発言した内容を進めることは良いことだと思うが、食品ロスを減らすということも考えなければならないと感じる。農産物の話が出たので、JAさんの意見を伺いたい。

(土屋委員)

野菜はフードドライブに適さないところではあるが、堆肥化・燃料化したりなど廃棄を減らす取り組みも行っているので、引き続き考えていきたい。

(渡辺副会長)

フードドライブを実施している団体を通すと、消費期限のことなどを考慮しなければならないと思うが、直接子ども食堂など支援先に届けられるようにすると、野菜なども有効利用できるのではないかと思う。

(山谷会長)

具体的事項③「ばら売りや量り売り、てまえどり運動など食品ロスを減らすための小売店への働きかけ」について、意見のある委員はいらっしゃいますか。

(先山委員)

アイデアを考えるにあたり、市内のどこでばら売りや量り売りをしているのか知らなかった。てまえどりポップがどこにあるのかと思い、普段利用するスーパーを3、4店舗回ってみたら、コープさんに設置されていた。

また、今回出されている、「ポップを小売店に配布する」というアイデアはとても良いと思った。てまえどり自体を知らない人もまだまだいると思うので、随分効果があるのではないかと思う。

(山谷会長)

いなげやさんでは、市内の店舗でばら売りや量り売りを実施されているようだが、具体的にはどのような取り組みを行っているのか。

(茂木委員)

ばら売りについては、揚げ物などを1個ずつパックに入れて買えるようになっていたと思う。衛生面の観点から、昔のように陳列された商品を自分で取ったりするような方法は行っていない。

てまえどりについては、様々な自治体から依頼されてポップなどを掲示したりしている。店舗の改装や売場の構成が変わる際に剝がれてしまうことも多くあるため、定期的に店舗に送っていただくと確実に掲示されると思う。

(山谷会長)

てまえどりは、消費者にとってはなかなか難しいものであると感じるので、店舗における陳列方法が重要になってくると思う。期限が近いものをまとめて並べればてまえどりを意識する必要がないと思うが、店舗側の運用が難しいのだろうか。

(茂木委員)

店舗のバックヤードにある冷蔵庫があまり広くないので、納品されたものはすぐ店頭に並べないといけないという事情がある。期限が近づいてきた商品については、値引きをして売ったりしているので、お買い得と思って積極的に買っていただきたい。廃棄をする商品が減るので、店舗としても嬉しい。

(市川委員)

私自身もそうだったが、てまえどりが食品ロスを減らすということを知らない方が多くいると思う。値引きされた商品を購入することが店舗側にとっても嬉しいということを知らなかったなので、周囲の人にも伝えたい。

(先山委員)

消費者心理としては、少しでも期限が先のものを購入したいという気持ちがあるが、少しずつ消費者の意識が変わってきているように感じる。スーパーを訪れた際、どの店舗にも値引きコーナーがあった。てまえどりの意義を消費者に伝えるということはもちろんだが、てまえどり自体がトレンドになっているという意識を皆に持っていただくことが重要だと思う。そのためにも、市でポップを作成することはできないか。

(市川委員)

単にてまえどりを消費者にお願いするのではなく、まずてまえどりの意義を伝えることがポイントだと思う。

(小栗委員)

私は、てまえどりはあまり意味のないものであると考えている。実際にスーパーに行って、他の客を見ていると精肉売り場で色々と物色している様子を目にする。店舗側もそれを分かっているの、値引きなどして期限が近いものを売って、すぐに食材を使う消費者はそれを購入する。売る側も買う側も、納得して消費することができるので、あえててまえどりをお願いする必要はないと思う。売る側の工夫と努力で、何とかかなると思う。

(山谷会長)

たしかに、てまえどりだけにこだわるのではなく、小栗委員が言ったような方法で廃棄を減らすことができるかもしれない。

(渡辺副会長)

ばら売りやてまえどりをしている店舗を食品ロス削減協力店として認定したり、エコショップ認定制度の認定基準に入れたりというアイデアがあり、実現可能性やコスト面を考えると良い考えだと思う。

(事務局)

トレイを使用しない包装や簡易包装については、既にエコショップ認定制度の基準となっている。取り組みを実施している店舗については、ごみカレンダーやパンフレットなどに掲載し、市民へ利用を促している。

(先山委員)

各エコショップ認定店における取り組み内容を示した掲示物を店舗に貼っていただくといった呼びかけをするのはどうか。食べきり協力店もそうだが、どの店が該当しているか分かりにくい。

(事務局)

エコショップ認定店に対しては、今年度シールを作成して店舗に配付する予定である。食べきり協力店についても、ポスターなどの掲示物をすでに配付している。

(先山委員)

認定店であることが一目で分かるような掲示物があると良いが、どうか。

(事務局)

エコショップ認定店へ送るものは、「認定店」の文字が入ったシールを配付する予定。

(山谷会長)

具体的事項④から具体的事項⑥までについて、意見のある委員はいらっしゃいますか。

(渡辺副会長)

具体的事項⑥について、現在クリーンメイトが行っているアンケートの調査対象となる人の範囲をもう少し広げて、サンプル数を増やして実施出来たら良い。どのような調査を行ってどのような結果が出たかを知りたい方はいると思うので、マスコミ等にも取り上げてもらえるのではないだろうか。

(先山委員)

アンケートをしていて感じたのは、賞味期限と消費期限の違いを理解していない人が多くいるのではということである。賞味期限が過ぎただけで廃棄してしまう人もいるようで、正しく理解してもらうことが必要だと思う。

(小栗委員)

具体的事項⑥に自治会について触れた意見があるが、新型コロナウイルスの前と後で自治会活動のあり方が大きく変わっている。自治会加入率が大きく低下している現在では、回覧板を用いた広報の効果は限定されてしまうと思う。

(山谷会長)

事務局はどのような理由で、回覧板を用いた広報が効果があると判断したのか。

(事務局)

市報やホームページなどと比較して、直接回覧板で目にすることができるという理由でこの評価としている。また、取り組みやすさもこの評価の理由である。

(吉浦委員)

高い意識を持つ市民が回覧板を見ていると思う。まずは、取り組んでいただけそうな方に情報が届いたら良いのではないか。

(山谷会長)

回覧板単独で活用するのではなく、市報やSNSと併せて広報を行っていけば良いと思う。